

房総の 文化財

VOL.26

平成13年11月30日

財団法人 千葉県文化財センター

〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811(代)

FAX 043-422-8850

www.chibaken-bunkazai-center.or.jp

ISSN 0919-0848

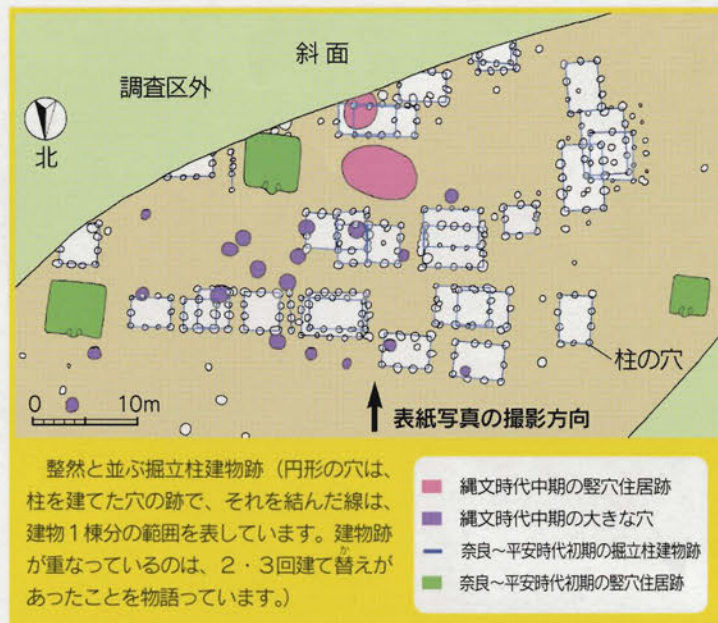
Bōsō no bunkazai



CONTENTS

- | | |
|----------|-----------------------------|
| 発掘調査速報 | 酒々井町飯積原山遺跡 |
| 遺物紹介コーナー | 君津市踊ヶ作遺跡出土鉄板 |
| 遺跡今昔物語 | 県指定史跡佐倉市飯郷作遺跡 |
| 埋文アラカルト | コラム・お知らせコーナー・
埋文レポートコーナー |

整然と並ぶ古代の建物群—酒々井町飯積原山遺跡—



飯積原山遺跡は、印旛郡酒々井町飯積にあり、平成6年度から継続して発掘調査が行われています。

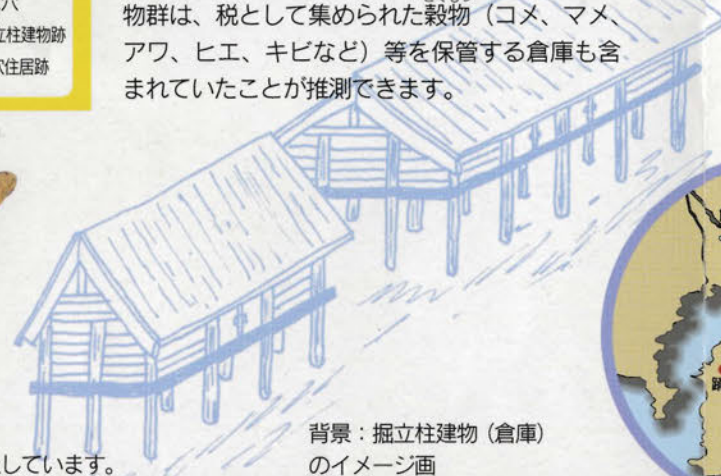
平成12年度の調査では、奈良時代から平安時代初期にかけての竪穴住居跡と掘立柱建物跡が発見されました（表紙写真）。

なかでも興味深いのは、整然と並ぶ27棟の掘立柱建物跡です。全てが同時期に建てられたわけではありませんが、郡衙（郡の役所）よりも規模が小さい役所の建物の可能性があり、大変貴重な発見となりました。

この建物群の周辺からは、焼けて炭になったコメや墨で「三倉」と書かれた土器（墨書土器＝写真＝）が出土しています。このことから、建物群は、税として集められた穀物（コメ、マメ、アワ、ヒエ、キビなど）等を保管する倉庫も含まれていたことが推測できます。



▲「三倉」と書かれた土器（杯）。この文字資料は、竪穴住居跡からも出土しています。



背景：掘立柱建物（倉庫）のイメージ画



遺物紹介コーナー

古代のお墓から出土したナゾの鉄板 —君津市踊ヶ作遺跡出土—

写真2は、奈良・平安時代のお墓（火葬墓）から出土した鉄板と骨蔵器で、板の一部が付いたままの釘も一緒に見つかりました。このことから、骨蔵器は木の箱に納められ、鉄板をその箱の上に置いて埋められたと考えられます。鉄板のおよその大きさは、長さ25cm、幅9cm、厚さ0.5cmです。

では、この鉄板は何なのでしょう。お墓に板状のものが一緒に埋められている例として、陶器や金属の板で作られた墓誌や買地券といったものがあります。これらは古代中国の思想に基づく習慣で、墓誌はその人の生前の経歴などが書かれたもの、買地券はあの世の神様から墓地を買取ったことを記したものです。

踊ヶ作遺跡出土の鉄板からは、今のところ文字や記号は確認されていませんが、墨などで文字が書かれていたのではないかと考えられます。県内の奈良・平安時代のお墓から、墓誌や買地券と一緒に出土したのは大変珍しく、袖ヶ浦市雷塚遺跡など、ほんの数例しかありません。



写真1 踊ヶ作遺跡の調査風景（平成12年）



写真2 骨蔵器は、甕に杯でフタをした状態で出土し、中に遺骨が納められていました。火葬墓は、県内では市原市から富津市にかけての東京湾地域に集中しています。

遺跡 今昔 物語

県指定史跡・飯郷作遺跡
—高校の敷地に保存された古墳群—

遺跡が発掘調査されるきっかけは、住宅地の開発、高速道路や鉄道の建設など様々です。ここで紹介する飯郷作遺跡は佐倉市にあり、県立佐倉西高等学校を新設するのに先立って、昭和51年から52年にかけて調査が行われました。

遺跡は印旛沼を北に望む、入り組んだ台地の上にあります。弥生時代から奈良・平安時代までの住居跡109軒、掘立柱建物跡6棟のほか、古墳時代前半（4世紀）の前方後方墳2基、方墳4基、方形周溝墓*23基が発見されました。このうち前方後方墳1基、方墳2基、方形周溝墓5基（写真1・2）は、比較的短い間に、連続して造られており、墓の周りを取り巻く溝の一部を共有していることがわかりました。

弥生時代から続く墓の様式である方形周溝墓と、古墳時代に新しく広まった前方後方墳と方墳が、このようにひとまとまりになって

発見されたのは、当時、全国でも珍しく、弥生時代から古墳時代にかけて、この地域がどのように変化したのかを解き明かす上での、貴重な資料となりました。このため、発見された古墳群の一部を整備して保存することになり、校舎はこれらを選り抜いて建設されました（写真3）。

保存された古墳群（前方後方墳1基、方墳2基、方形周溝墓5基）は、昭和54年に県の史跡に指定され、学校での生きた歴史学習の場として活用されています。*

* 方形周溝墓については、「方墳」としてとらえる考え方もあります。
** 見学をご希望される場合は、事前に学校に連絡していただきたいとのことです。なお、遺跡の資料は、県立房総風土記の丘（栄町）で保管され、学校にも一部展示されています。



写真1 発掘当時の古墳群
1（前方後方墳）、2・3（方墳）、4～8（方形周溝墓）
（写真提供：県立房総風土記の丘／昭和52年撮影）



写真2 調査中の古墳群（中央）と建設中の校舎（左上）。
（写真提供：県立房総風土記の丘／北から撮影）



写真3 保存整備された古墳群。写真1とほぼ同じ位置から撮影
（平成13年10月撮影／協力：県立佐倉西高等学校）



日本の時代区分表

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古代 中世 近世 近・現代

(注)日本の旧石器時代の始まりについては、現在、再検討されています。よって、本紙では、新たな見解が発表されるまで、年代の記載を中止いたします。

約12000年前（この表は、100年を5mmで表現してあります。したがって、縄文時代は約50cmにもなります。） 約2300年前

約1700年前 飛鳥時代 794 奈良時代 1192 1333 鎌倉時代 室町時代 1573 1603 江戸時代 明治 昭和 平成 安土・桃山時代 大正

埋文アラカルト



コラム

これ なーんだ？

写真の出土品は、古代の遺跡から見つかりました。
さて、何に使った道具でしょうか？



出土品所蔵／八千代市教育委員会

ヒント 1

この2つは、セットで使用され、日々の生活に欠かせない道具でした。(a) は鉄製で、(b) は、石英（ガラス質の石）製です。

今回紹介した例は、八千代市井戸向遺跡の竪穴住居跡（平安時代初期・9世紀初めころ）から出土しました。(a) の大きさは、長さ9cm・幅4cm・厚さ0.4cm・重さ40gです。各地の出土例を見ると、時代や地域により形やデザインが少し異なります。

ヒント 2

今でも、形は違いますが、キャンプや花火をするときには、なくてはならない道具です。

ヒント 3

時代劇では、銭形平次が出かけるシーンで、おかみさんが、「おまえさん、行ってらっしゃい。気をつけて。カチカチッ！」と、玄関で“おまじない”のように使っているのを見ることができます。地域や職業によっては、今でも、厄よけの儀式として使われています。

※正解はページ下にあります。



お知らせコーナー

「土器ッ」と古代“宅配便”実施中

当センターが発掘調査した出土品をセットにし、県内の学校や公民館等の社会教育施設に貸出して、実物の資料を有効に活用していただく企画です。

セットの付属として、「火起こし具」「勾玉づくり」「縄文の文様付け」「石器（模造品）の切れ味体験」等、体験学習用のセットも貸出していますので、ぜひご利用ください。

◇費用：無 料

◇セットの搬出入：当センターが行います。

◇お申込みお問合わせ：資料部資料課

Tel 043-422-8811（代表）



千葉市立土気南小学校にて火起こし体験

平成13年度千葉県遺跡調査研究発表会

◇内 容：県内の主な発掘調査の研究発表と、出土品の展示

◇主 催：千葉県文化財法人連絡協議会、千葉市教育委員会（共催）

◇日 時：平成14年1月20日（日）10：00～15：30

◇会 場：千葉市文化センター（ホール及び市民サロン）

【千葉中央ツインビル2号館3階・5階／
千葉市中央区中央2-5-1】

◇対象者：一般

◇参加費：無料（当日受付）

◇問合わせ：当センター調査部企画課

Tel 043-422-8811（代表）



埋文レポートコーナー

君津市鹿島台遺跡現地説明会

「弥生時代の環濠集落—君津市鹿島台遺跡とその時代—」と題して、10月13日（土）に当センターほか主催の現地説明会と展示会が行われ、約1,000名の参加がありました。

鹿島台遺跡は、縄文時代中期から古墳時代中期の遺跡で、見学者は、環濠集落と墳墓群の説明に熱心に耳を傾け、古墳から出土した約3,700点にも及ぶ滑石製白玉（装飾品）などに目を奪われていました。

当日は、現地説明会のほかに、鹿島台遺跡の出土品と君津地域の出土資料の展示解説が、県立上総博物館で行われました。また、同館では、出土遺物巡回展「房総発掘ものがたり」も同時開催中で、見学者は、地中から掘り起こされた房総の文化財に魅了されていました。

*巡回展は、現在、会場を県立大利根博物館に移し、開催中です。平成13年12月16日（日）まで。

問合わせ：当センター資料部資料課

Tel 043-422-8811（代表）

「やってみたかったです！」 高校生体験発掘に感激

県立四街道高等学校の生徒延べ20名は、「さわやか高等学校推進事業」の一環として、8月1日・2日の2日間にわたって、酒々井町飯積原山遺跡（「発掘調査速報」参照）で、初めての遺跡発掘を体験しました。

猛暑の中、インディ・ジョーンズになりきった生徒から「私たちは、住居跡を掘り下げる作業を任せられました。最初は、出土品を傷付けはしないかとおそろおそろ掘っていたのですが、いつの間にか手が痛いのも気付かず、夢中になって掘っていました」などの感想が寄せられました。



「ウォーク・イン古代」千葉市・市原市を往く



平成6年からスタートしたこの企画は、県内の遺跡や施設を見学するもので、今回で8回目をむかえ、毎回好評を得ています。

11月10日（土）、JR鎌取駅に集合した参加者40名は、千葉市埋蔵文化財調査センター、大覚寺山古墳、ありよし貝塚、当センター中央調査事務所などを見学し、下総・上総路に残る郷土の埋蔵文化財に思いをはせていました。

■コラムの正解は「発火具」です。(a) は火打ち鉄、(b) は火打ち石です。なお、詳しい内容は、第27号で解説します。

■表紙写真の説明／空から見た飯積原山遺跡の掘立柱建物跡群（一部）。全体に広がる竊模様は、近年の畑の耕作あと。